

経営学部派遣学生 留学体験記-1

派遣先： オストラバ工科大学（チェコ）

派遣期間： 2019年9月～2019年12月



1. なぜオストラバ工科大学に交換留学しようと思ったか？非英語圏で長期滞在して日本に輸入されてもない異文化に触れることで、価値観を壊すような経験をしたいと思っていた為に、チェコのデア学を選びました。また、留学生に対する環境がとても整っていることも、選んだ理由の一つです。留学生をサポートしてくれる学生団体、キャンパス併設の学生寮、豊富な英語授業など留学生の受け入れ態勢がとても整っていると感じました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと：リーディングとリスニングの勉強は自学でどうにかなるものの、スピーキングとライティングはなかなか一人で実力をつけていくことは難しかったです。そこで、横国にきている留学生のチューターとなり英語で話す機会を作ったり、オンライン英会話を活用したりすることで英語を使う機会を増やすようにしました。また、チェコ語も少しだけ勉強しました。いくつかフレーズを覚えているだけで現地の人との距離感がぐっと近づくのでオススメです！

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：自分とは異なる文化や意見を、両手を広げて受け入れられる寛容な心を学べたことです。EU圏内では、国境を超えた交流がずっと身近なもので、「外国人」という言葉のハードルがとても低いように感じました。電車の行き先が他国で、中でいろんな言語が飛び交っているのは当たり前、初めて会う人へのはじめの挨拶はhelloです。違う国の人に会ったら、最大限に使って質問をし、理解を広げようとする姿勢を多くの人が持っていて、自分も真似て見ることでとても多くのことを学ぶことができました。

4. 一番辛かったこと：これは辛かくも嬉しくもあった事ですが、大学内に日本人が僕一人しかいなかったことです。学期が始まる数日間は途方もない孤独感を感じていましたが、その後は毎日楽しんでいました。周囲から唯一の日本人のように認識してもらえて、簡単に顔と名前を覚えてもらえたことも助けになりました。「せっかく留学きたんだから頑張って英語使っていかなきゃ」みたいなことを考える必要もなく、生活を送ることがそのまま最高の留学生活になっていたことは逆にとてもストレスフリーに感じました。国内外問わず毎週のように旅行に行ったり、ご飯を持ち寄ってみんなでご飯食べたり、現地で出会った人と過ごした全ての人との時間はかけがえのない財産です。

経営学部派遣学生 留学体験記-2

派遣先： La Haute Ecole de la Province de Liège （リエージュ州大学校、ベルギー）

派遣期間：2018/09/03～2019/06/30



1. なぜリエージュ州大学校に交換留学しようと思ったか？ 英語とフランス語の両方のスキルを高めながら、アクティブに経営学を学ことができる環境に惹かれたからです。前期は留学生用に英語での授業プログラム(Business course)が用意されており、後期は現地の学生と共にフランス語で授業を受ける制度になっていました。また、1授業あたりの学生数は多くても20人ほどで、授業中は教授と対話するようにして進み、ディスカッションやプレゼンテーションも多かったため、主体的に勉強することができました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと：英語に関しては、申請基準を満たすためにIELTS/TOEFLの問題集と単語帳を並行して進めました。ずっと机に向かっていると、モチベーションが下がってくるので、楽しみ半分勉強半分の気持ちで多国籍バーに足を運び、英語を使うようにしていました。フランス語も同様に仏検をマイルストーンにして勉強していました。横浜国大に来ていたベルギー人の留学生と友達になり、発音が正しいかの確認をしてもらったり、文法や単語でわからないことを積極的に質問して学習を進めていました。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：前期に授業の一環として取っていたYEPというビジネスプランコンテストの最終発表で25チーム中2位を勝ち取ることができたことです。5ヶ月間、ベルギー人2名・フランス人2名・インドネシア人1名・日本人2名の多国籍チームで議論をたくさん重ねながらプロジェクトを進めました。議論が収束しなかったり、対立することも多くあった中、異なる価値観を持ったメンバーの意見をすり合わせることで、納得のいく最終プレゼンテーションをすることができ、成果が目に見える形で顕れたので嬉しかったです。

4. 一番辛かったこと：留学して最初の2～3ヶ月間、現金とクレジットカードの上限が来てしまったことが一番辛かったです。友人にお金を借りることができたので大丈夫でしたが、外国の銀行から直接お金を下ろすことができる銀行のカードを予め日本で作っておいた方がよかったです。その他のベルギーでの生活に関しては、辛かったことは全くといっていいほどなく、むしろ日本よりも良い暮らしができたのではないかと思います。

経営学部派遣学生 留学体験記-3

派遣先：ハンガリー・セントイシュトヴァーン大学

派遣期間：2017年9月～2018年1月



1. なぜセントイシュトヴァーン大学校に交換留学しようと思ったか？

教育制度に興味を持ったヨーロッパに留学したいと思っていて、物価を考慮したり、先輩の話を聞いたりして、この大学にしました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと：

家で地道に TOEFL の過去問や単語を勉強することに加えて、留学生と積極的に交流したり、長期休みに大学が主催する短期派遣プログラムに参加したりしました。語学の勉強は地味で継続が大事になるので、辛い時期もありました。そこで留学生の友人を作り英語で会話することで、少しは気楽に英語を上達させることが出来ました。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：

一番嬉しかったことは、社会人のサッカーチームに所属し、そこで多くの友人を作ることが出来たことです。様々な人を知るために、学内だけでなく、学外の交流も大事にしたいと思っていました。そこでサッカーチームに参加したのですが、最初は唯一の日本人で周りも社会人で年上ばかりだったので、遠慮していました。しかし、試合を重ねるにつれ仲を深めることができ、最終的には良き友人となりました。

4. 一番辛かったこと：

大学の寮が満室で、自分でブダペストに家を探したことが一番辛かったです。フェイスブックグループからなんとか家を探しましたが、割高な家賃を払っていました。大学側のサポートが乏しく、とても残念に思いました。

経営学部派遣学生 留学体験記-4

派遣先： チェコ共和国・オストラバ工科大学

派遣期間： 2018年9月～2019年7月



1. なぜオストラバ工科大学に交換留学しようと思ったか？

工科大学ということで、経営とITを掛け合わせた授業が比較的多く選択できたからということと、比較的物価の安い所に行きたかったのがこの大学を選びました。また以前ハンガリーに交換留学をしていて、中央ヨーロッパの土地柄が気に入っていました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと：

2017年9月から2018年1月までハンガリーに半年間交換留学をしていたので、特に取り組んだことはありませんが、ハンガリーに行く前は留学生と積極的に交流することや、長期休みで開催される学内の短期派遣プログラムに参加し、友人を作ることで楽しく語学を勉強していました。もちろん、地道にTOEFLの勉強もしていました。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：

一番嬉しかったことは、チェコ国内の留学生向けのフットサル大会に出場し、優勝してフランスで行われたヨーロッパ大会に参加したことです。目標のために他の国の留学生と団結し、それを達成したことで、より深い絆が生まれたと思います。ヨーロッパ大会では他国からの参加者との交流や、同じチームの友人との観光など、良い思い出ができました。

4. 一番辛かったこと：

以前一度留学を経験していたことや、楽観的という性格もあり、あまり辛いことはありませんでした。人間関係にも悩まされることは無く、辛かったのは冬の寒さぐらいでした。